

だい かいじんけん どうわ もんだい ち いきこんだんかい ●第49回人権・同和問題地域懇談会まとめ

さくねんど どうよう こんかい さん かしゃ いけん だ ふん い き こんだん おお ち いき
昨年度と同様に今回も、参加者が意見を出しやすい雰囲気（ふんいき）で懇談できるような多くの地域
でくるま（わ）や2つ・3つのグループに分かれて懇談しました。自己紹介時にエピ
ソードを添えるなど和やかな中で懇談することが出来ました。地域における人権問題でし
たが、参加者の体験談やそれぞれの思いが出されました。

こんかい ち いき じんけんもんだい
今回のビデオは、地域における人権問題で5つのテーマがありました。

5つのテーマすべてについて懇談を行った地域が多かったようです。

しょう しゃ ●障がい者

しょう しゃ しせつけんせつはんたい しょうめい せま りんじん さんどう つま
障がい者施設建設反対の署名を迫る隣人と、それに賛同したくない妻。

あなたならどうしますか？

● スマホの時代、白杖の人に気づかない、危ないと思った。ながらスマホ
注意したい、子どもたちにも。

● 障がい者、ホームレス、外国人、性同一
性障害、同和問題、誰とでも壁をつく
らず相対することが、まず一歩だと
思った。

「お互いが相手のことを思いやるこ
とが大事であり、受け入れ合うこと
が出来れば差別は無くなる」といっ
た意見などが多かったね。

●ホームレス

ホームレスに退去してほしい隣人と戸惑う夫。

あなたならどうしますか？

● ホームレスを追い出すのではなく、地域一体として
支援していくことが大切だと改めて感じました。

● みかけだけでホームレスを差別してはいけない。関わっている人によって人生が変
わってくると思った。



● 外国人

「外国人はルールを守らない」と言う隣人と、孤立している外国人が気になる妻。

あなたならどうしますか？

その人の本質や人柄を知らないで「外国人だから」といった理由で距離を取ったり排除したりすることが無いようにするためにも、ひとりひとりが歩み寄ることが大切なのかなと思いました。

外国人のゴミ捨ての問題に関しても注意書を作るなど、差別を受けるとされている方が少しでも生活しやすい環境をつくっていくことが、あらゆる差別を解決する第一歩である今回のビデオを観て感じました。

● 性同一性障害

性同一性障害の家庭教師に戸惑う妻と「問題ない」と言う夫。

あなたならどうしますか？

性同一性障害を「障がい」として捉えない世の中になれるようにしたい。

ほんとに
そうだよね！



● 同和問題

妹の結婚相手が同和地区出身者、父を説得してほしいと頼まれる。

あなたならどうしますか？

同和問題について改めて考えることが出来ました。被害者、加害者はともかく傍観者で終わらず第一声、第一歩を自分から進めていければと改めて感じました。

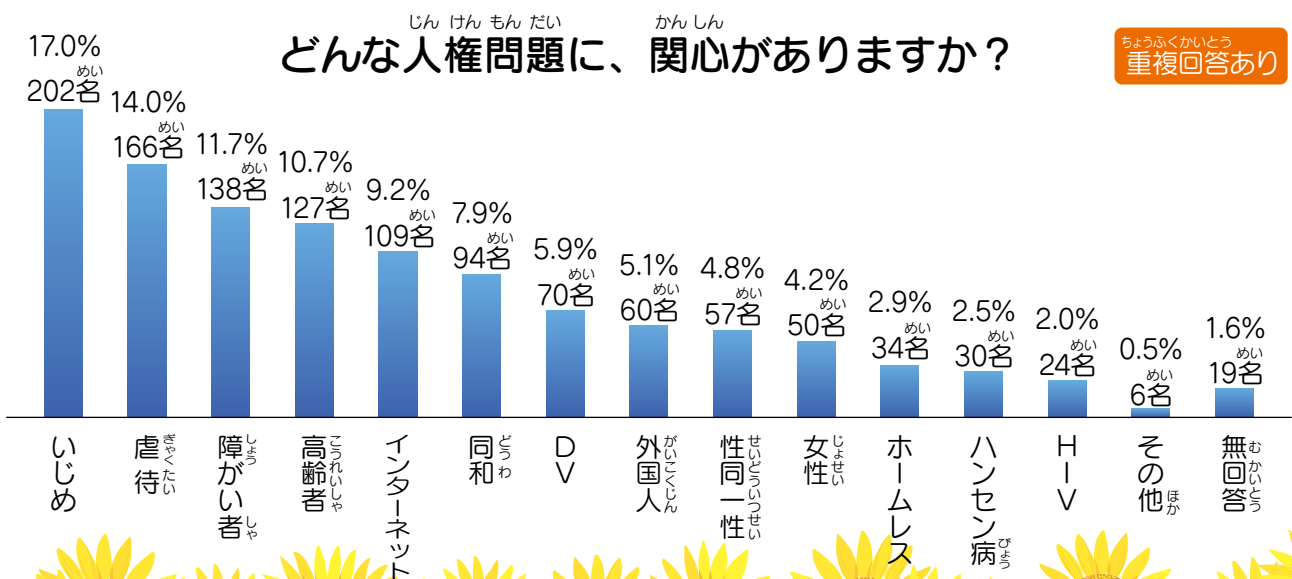
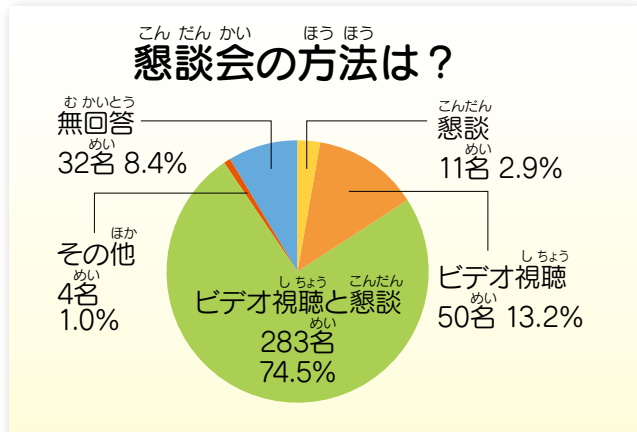
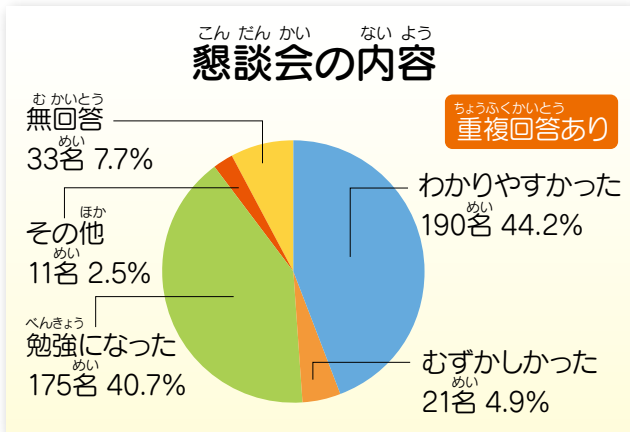
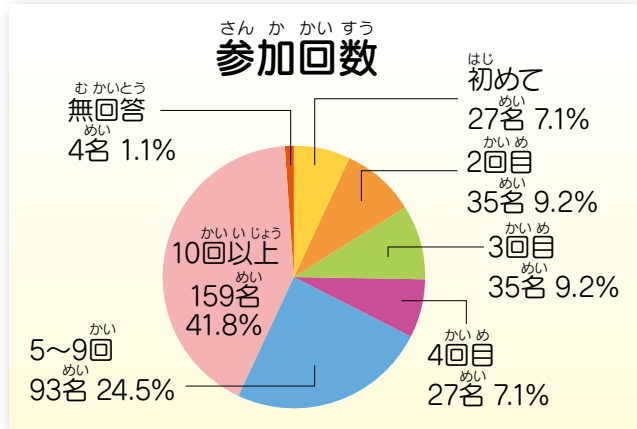
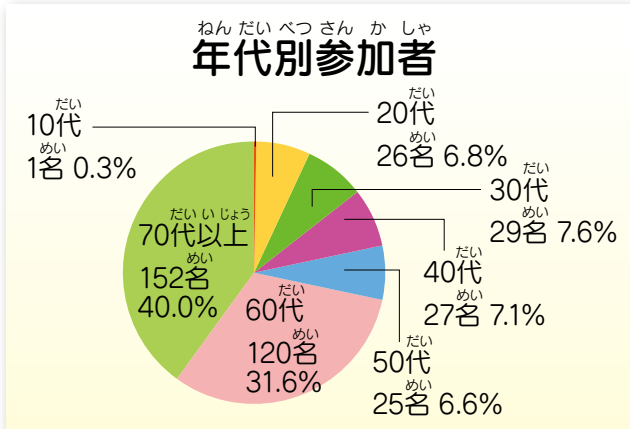
差別を解消して早く同和問題という言葉が無くなり人権後援会になるように。



令和元年度 第49回 人権・同和問題地域懇談会

アンケート集計結果

開催期間 令和元年10月1日(火)～31日(木) 11月10日(日)
 開催場所 35行政区 35会場
 参加人数 426名 アンケート提出者380名



成果と課題

成果

身近なテーマで意見交流が活発に！

参加者の身近にある地域で起こり得る内容だったため、懇談の中で意見が出しやすかったように感じられました。その結果、同和問題をはじめとする様々な人権問題への気づきにつながりました。地域社会の中でみんなが支え合い、人権文化の町づくりを目指して、私たち一人ひとりが人権について考え学び合う懇談会になっていると思えました。

テーマがいくつかあって、それぞれについて自分には思いもよらないような意見や情報を聞くことができ、また自分の考えが柔軟になったような気がします。

この懇談会で、みんなが人権について学び合うことが大切だね。



課題

参加しやすい懇談会づくりを！

昨年度は参加者が増加したものの、今年度は減少し、依然として参加者が少ない状況が続いています。参加者層としては50代以上が78.2%であり、若い方の参加が少ない状況でした。「人権文化の町づくり」のために、子育て世代の方など、幅広い世代で地域の皆さまが参加してみようと思えるような地域懇談会にするため、十分に検討したいと考えます。

出席する人は、同じ人ではありますが、だからこそ回を重ねることにより意見も出て和やかになってきたような気がする。広がれば良いと思う。

みんなが意見を出し合えば、差別のない地域づくりにつながるね。

